

【「第4期西脇市教育振興基本計画」策定に向けたアンケート調査 速報】

<< 調査概要 >>

対象	西脇市在住の満18歳以上の方 2,000人
調査実施時期	令和4年10月28日(金)～11月18日(金)
調査方法	郵送配布、郵送回収
有効回答数	729件(36.7%) ※11/25(金)回収分までを反映、回収率は到着数1,988件に対する割合

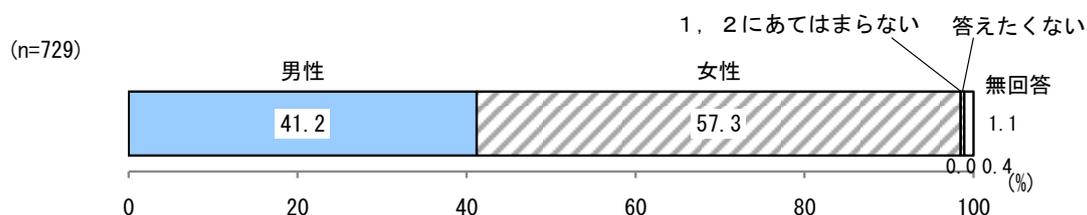
<< 調査結果 >>

回答者自身のことについて

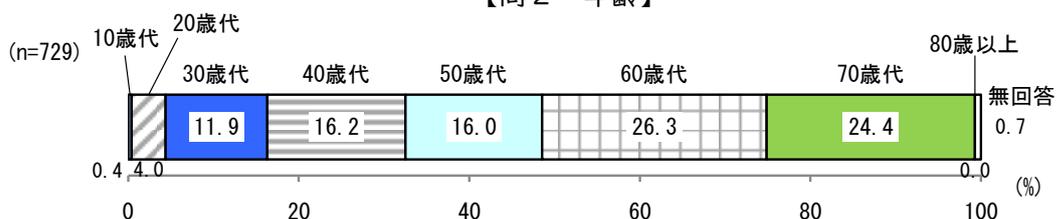
◇ 回答者の基本属性

- ・性別については「男性」が41.2%、「女性」が57.3%となっている。
- ・年齢については「60歳代」が26.3%と最も高く、次いで「70歳代」(24.4%)となっている。
- ・世帯構成については「二世帯世帯(親と子)」が42.2%と最も高く、次いで「夫婦のみ」(30.0%)となっている。

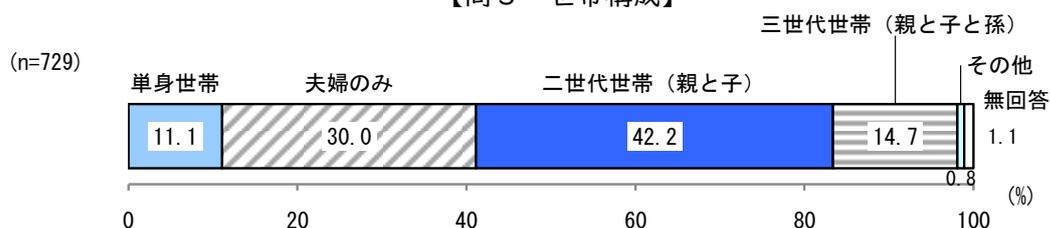
【問1 性別】



【問2 年齢】

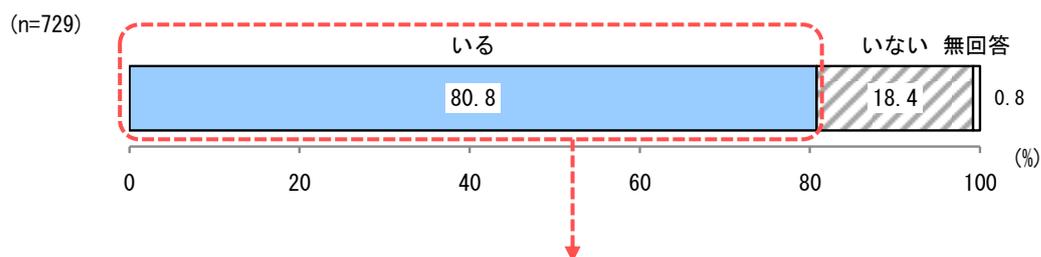


【問3 世帯構成】



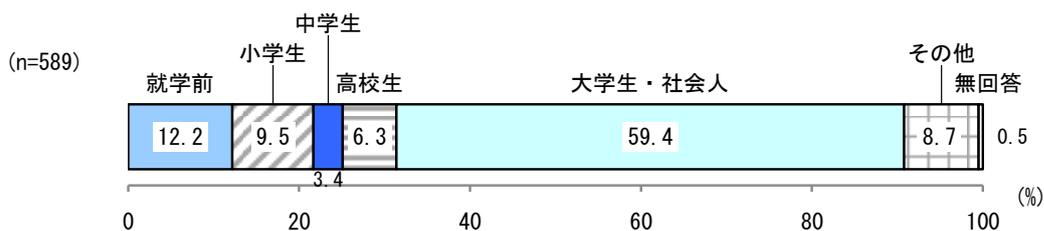
- ・子どもの有無については「いる」が80.8%となっており、一番下の子どもの年代では「大学生・社会人」が59.4%で最も高くなっている。
- ・職業については「勤め人（会社員・公務員など）」が33.9%と最も高く、次いで「無職（年金受給者含む）」(22.1%)となっている。
- ・居住地区については「黒田庄地区」が17.7%と最も高く、次いで「西脇地区」(15.6%)となっている。

【問4 子どもの有無】

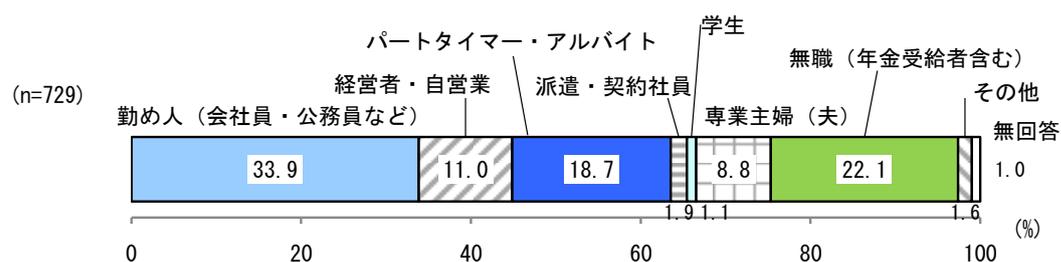


【問5 一番下の子どもの年代】

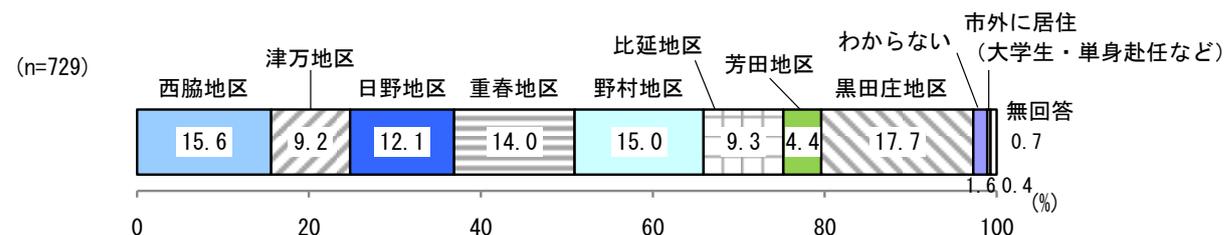
※問4で「いる」と答えた方のみ回答



【問6 職業】



【問7 居住地区】

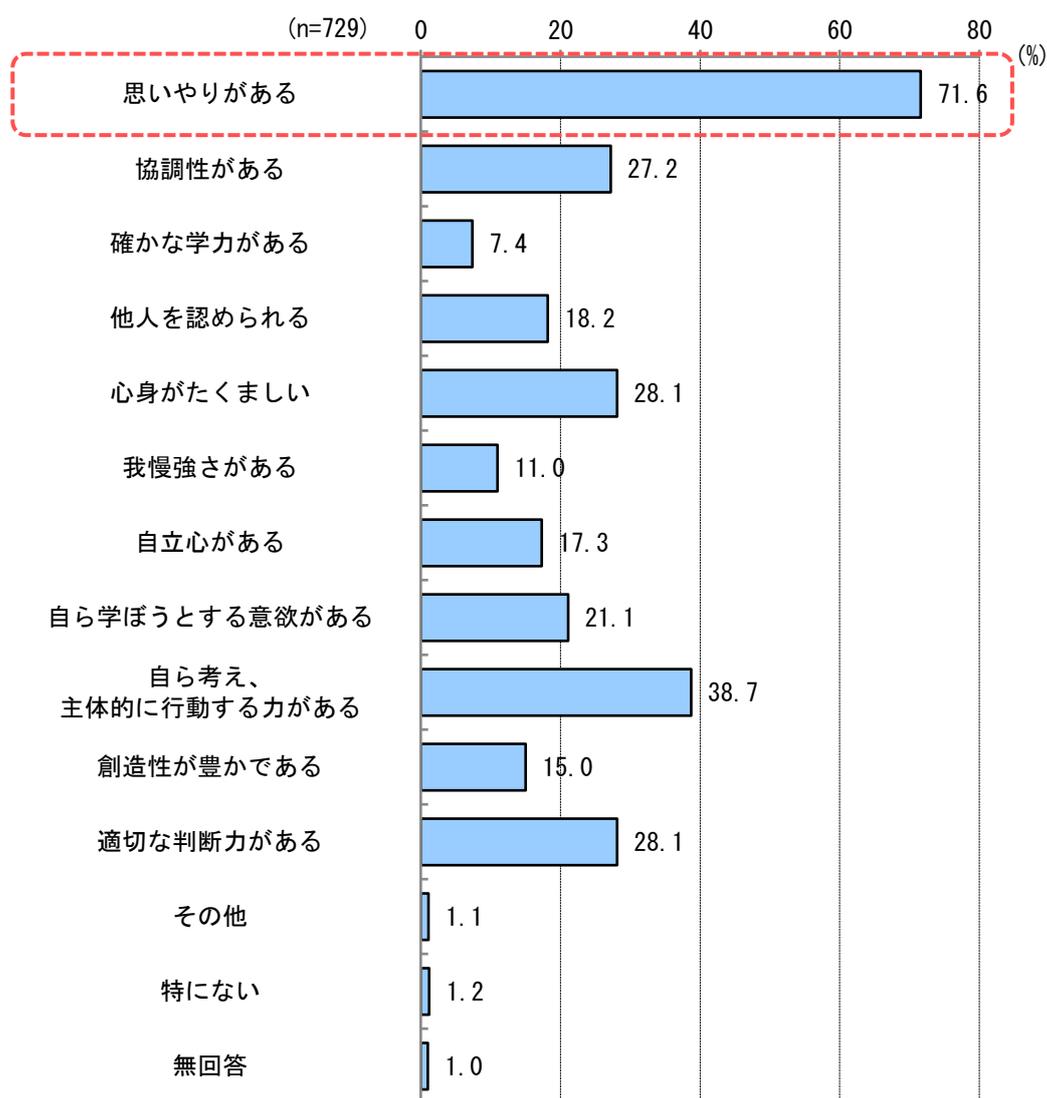


西脇市の子どもたちへの教育について

◇ 子どもたちに、どのような子どもになってほしいか

- ・どのような子どもになってほしいかについては、「思いやりがある」が71.6%と7割を超え最も高く、次いで「自ら考え、主体的に行動する力がある」(38.7%)、「心身がたくましい」(28.1%)・「適切な判断力がある」(28.1%)となっている。

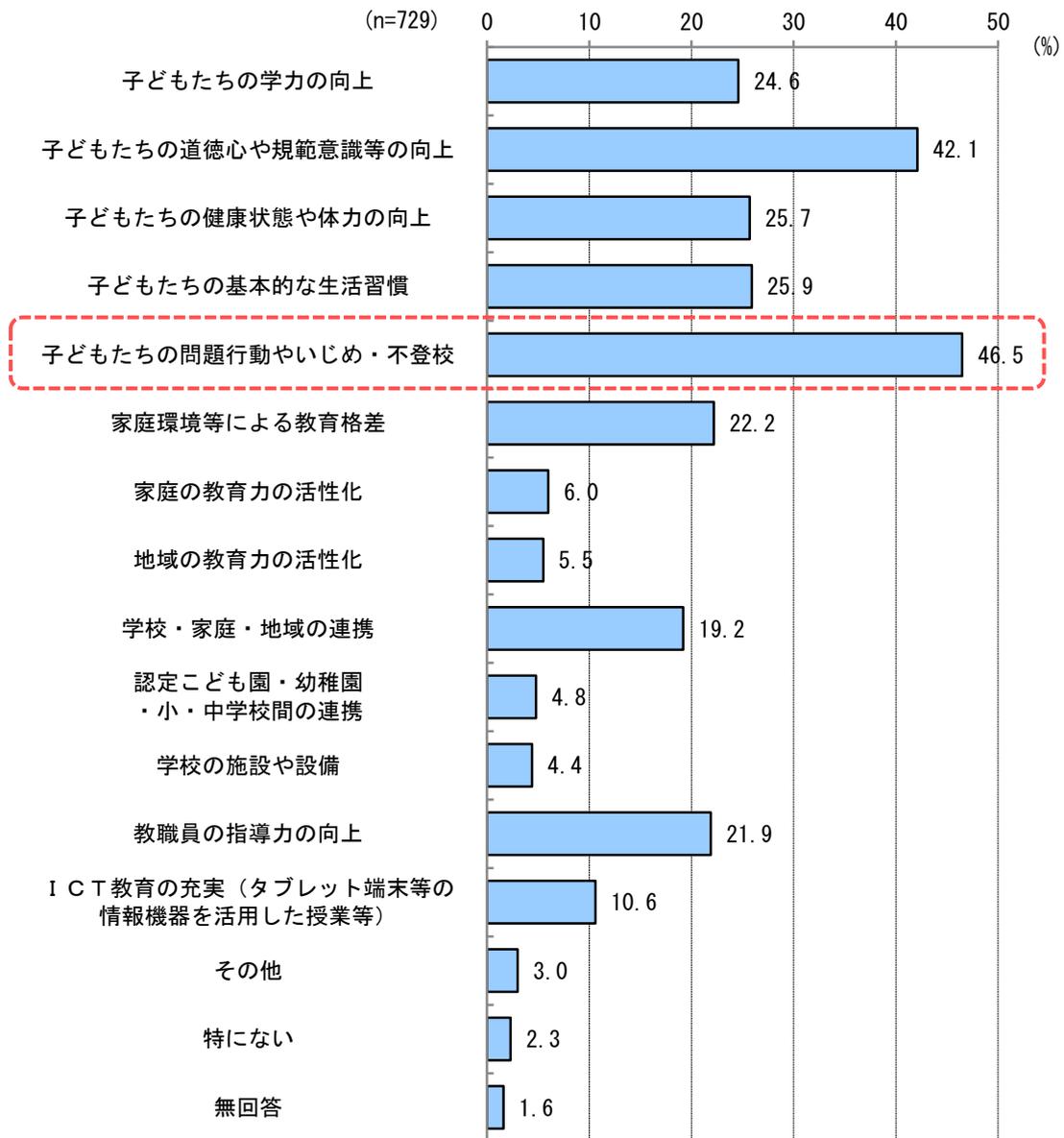
【問8 どのような子どもになってほしいか】



◇ 子どもたちや教育について課題と感じていること

・子どもたちや教育について課題と感じていることについては、「子どもたちの問題行動やいじめ・不登校」が46.5%と最も高く、次いで「子どもたちの道徳心や規範意識等の向上」(42.1%)、「子どもたちの基本的な生活習慣」(25.9%)となっている。

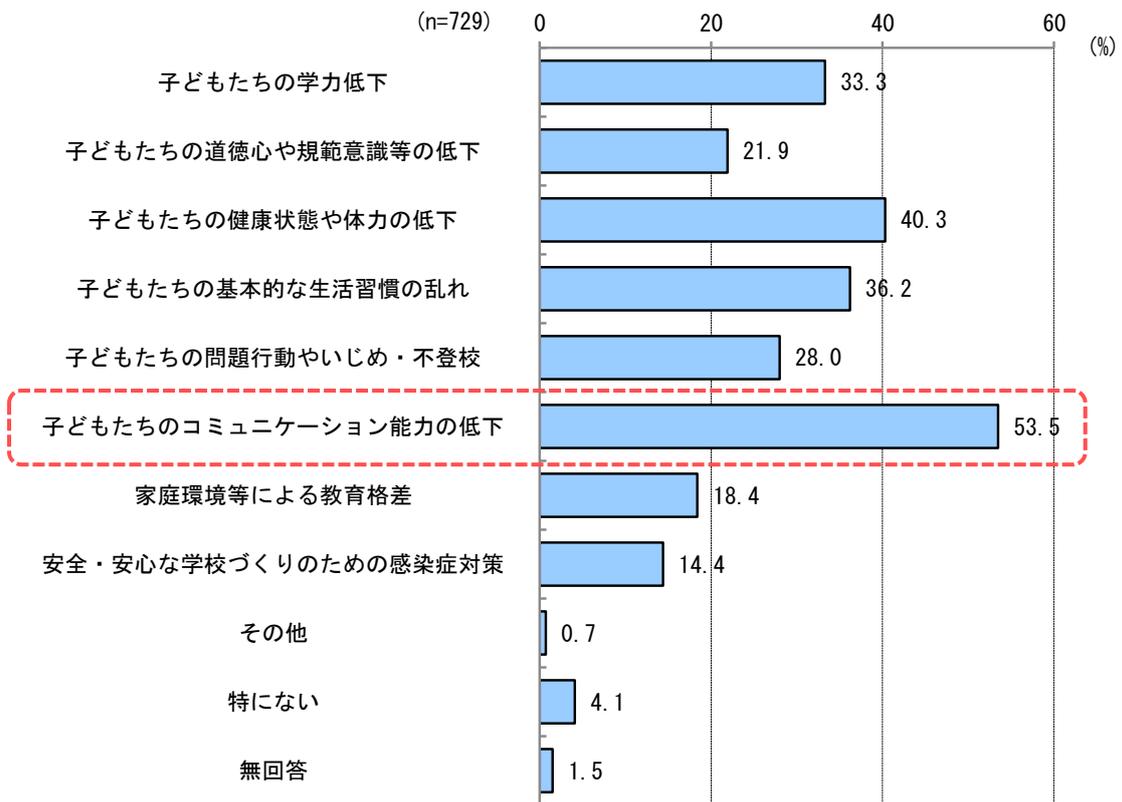
【問9 子どもたちや教育について課題と感じていること】



◇ コロナ禍における子どもたちの教育について不安に感じていること

・コロナ禍における子どもたちの教育について不安に感じていることについては、「子どもたちのコミュニケーション能力の低下」が53.5%と5割を超え最も高く、次いで「子どもたちの健康状態や体力の低下」(40.3%)、「子どもたちの基本的な生活習慣の乱れ」(36.2%)となっている。

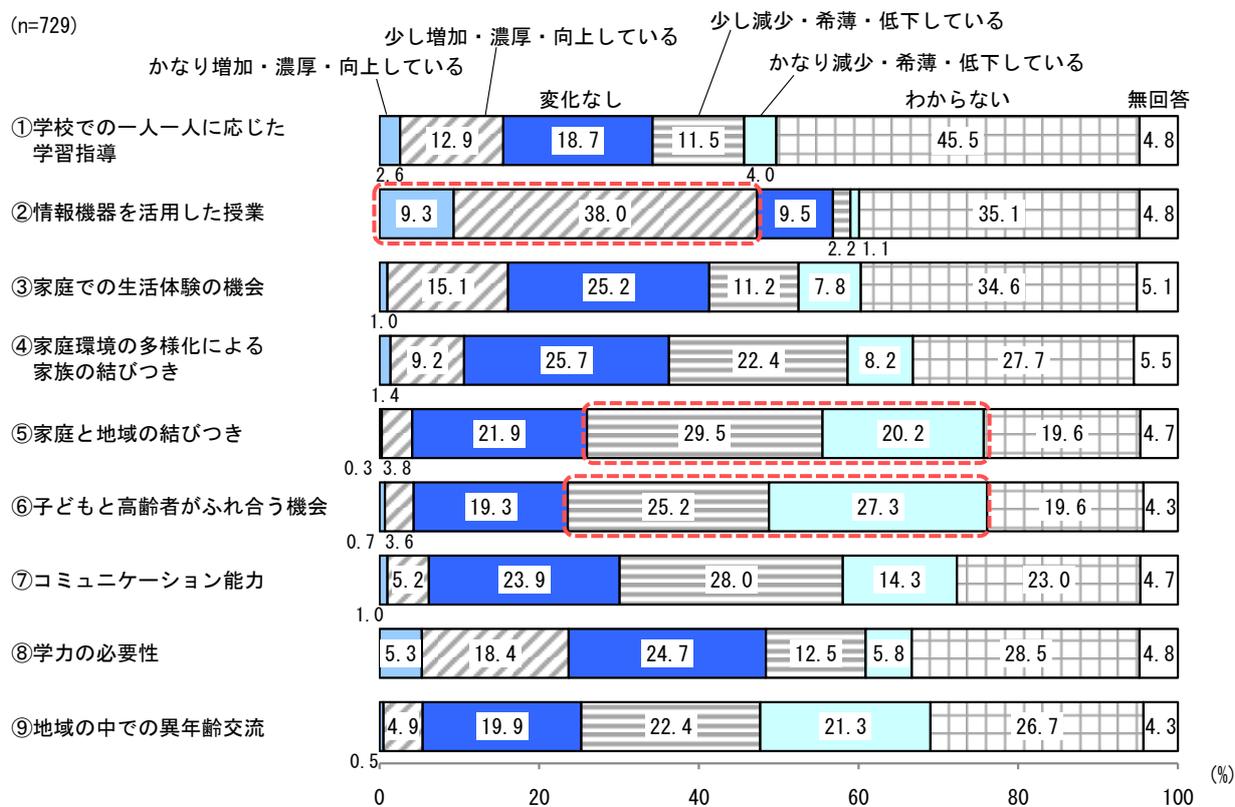
【問10 コロナ禍における子どもたちの教育について不安に感じていること】



◇ 子どもたちを取り巻く環境の変化について

- ・子どもたちを取り巻く環境の変化については、「②情報機器を活用した授業」で「かなり増加・濃厚・向上している」(9.3%)・「少し増加・濃厚・向上している」(38.0%)を合わせた『増加・濃厚・向上している』の合計割合が47.3%と5割近くを占め、全項目で最も高くなっている。
- ・一方で、「⑤家庭と地域の結びつき」・「⑥子どもと高齢者がふれ合う機会」で、「少し減少・希薄・低下している」・「かなり減少・希薄・低下している」を合わせた『減少・希薄・低下している』の合計割合が5割程度を占め、他の項目より高くなっている。

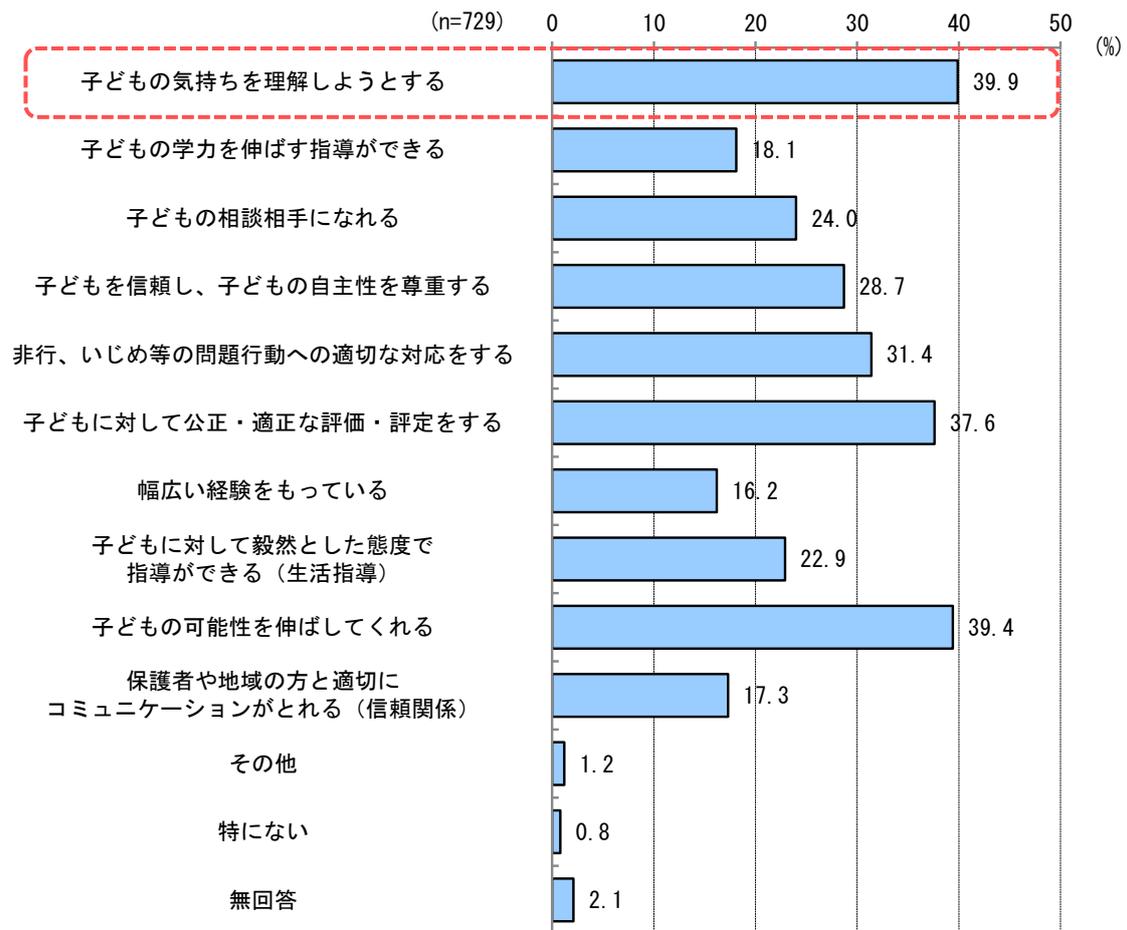
【問11 子どもたちを取り巻く環境の変化】



◇ 理想とする教師像について

・理想とする教師像については、「子どもの気持ちを理解しようとする」が39.9%と4割近くを占め最も高く、次いで「子どもの可能性を伸ばしてくれる」(39.4%)、「子どもに対して公正・適正な評価・評定をする」(37.6%)となっている。

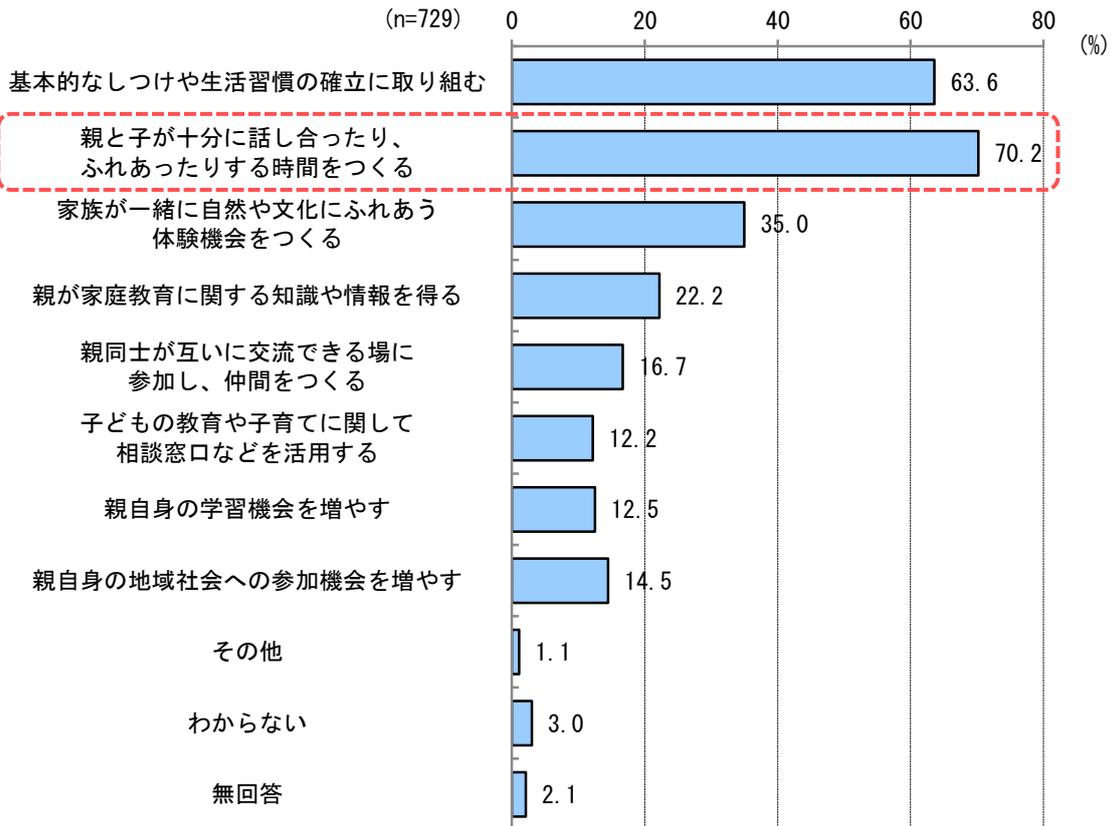
【問 12 理想とする教師像】



◇ 家庭の教育力を高めるために必要な取り組みについて

・家庭の教育力を高めるために必要な取り組みについては、「親と子が十分に話し合ったり、ふれあったりする時間をつくる」が70.2%と7割を占め最も高く、次いで「基本的なしつけや生活習慣の確立に取り組む」(63.6%)、「家族と一緒に自然や文化にふれあう体験機会をつくる」(35.0%)となっている。

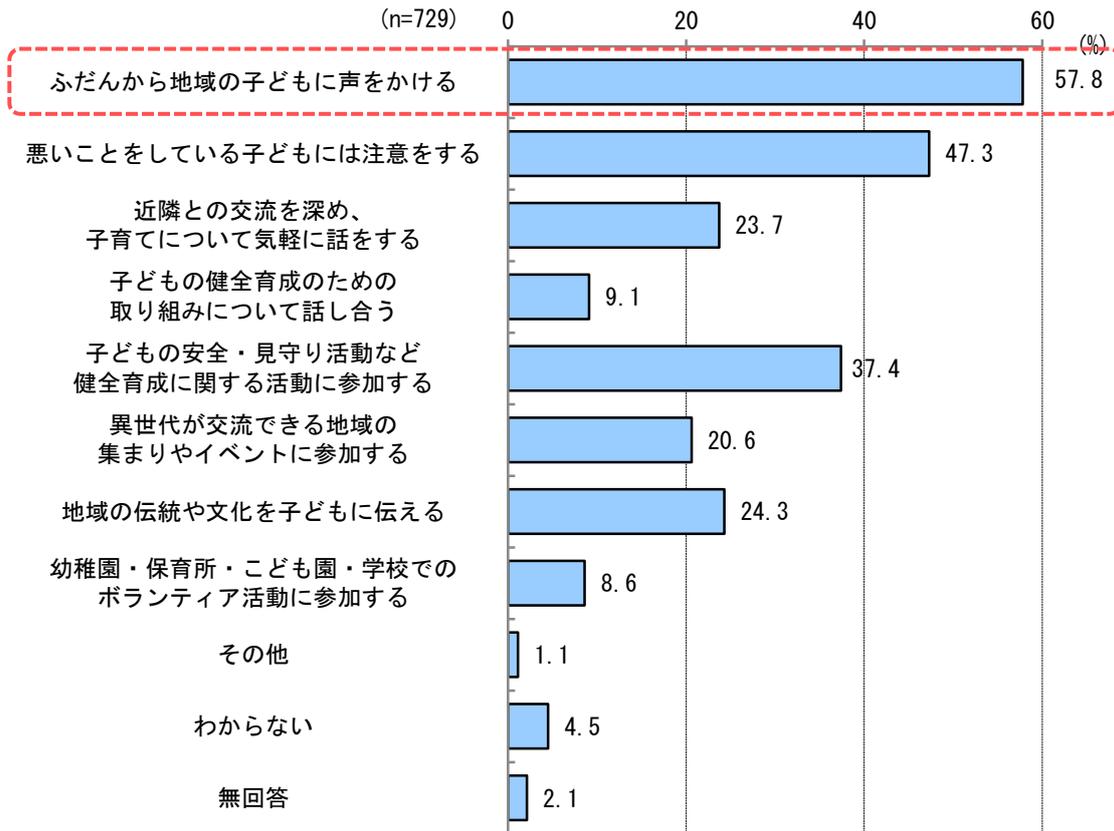
【問13 家庭の教育力を高めるために必要な取り組み】



◇ 子どもの健全育成のために地域住民に期待されることについて

・子どもの健全育成のために地域住民に期待されることについては、「ふだんから地域の子どもに声をかける」が 57.8%と6割近くを占め最も高く、次いで「悪いことをしている子どもには注意をする」(47.3%)、「子どもの安全・見守り活動など健全育成に関する活動に参加する」(37.4%)となっている。

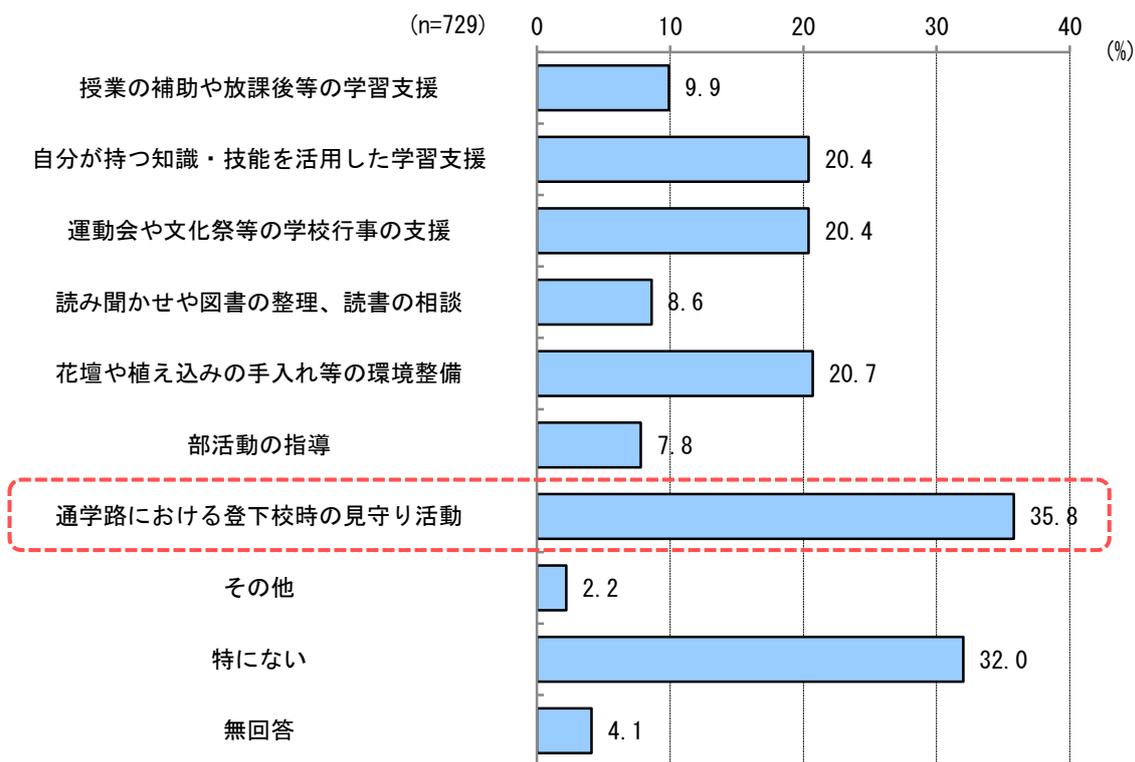
【問 14 子どもの健全育成のために地域住民に期待されること】



◇ 学校に対して協力してみたいと思うことについて

・学校に対して協力してみたいと思うことについては、「通学路における登下校時の見守り活動」が35.8%と最も高くなっているものの、次いで「特にない」が32.0%を占め高くなっている。その他、「花壇や植え込みの手入れ等の環境整備」(20.7%)、「自分が持つ知識・技能を活用した学習支援」(20.4%)・「運動会や文化祭等の学校行事の支援」(20.4%)が2割を占めている。

【問15 学校に対して協力してみたいと思うこと】



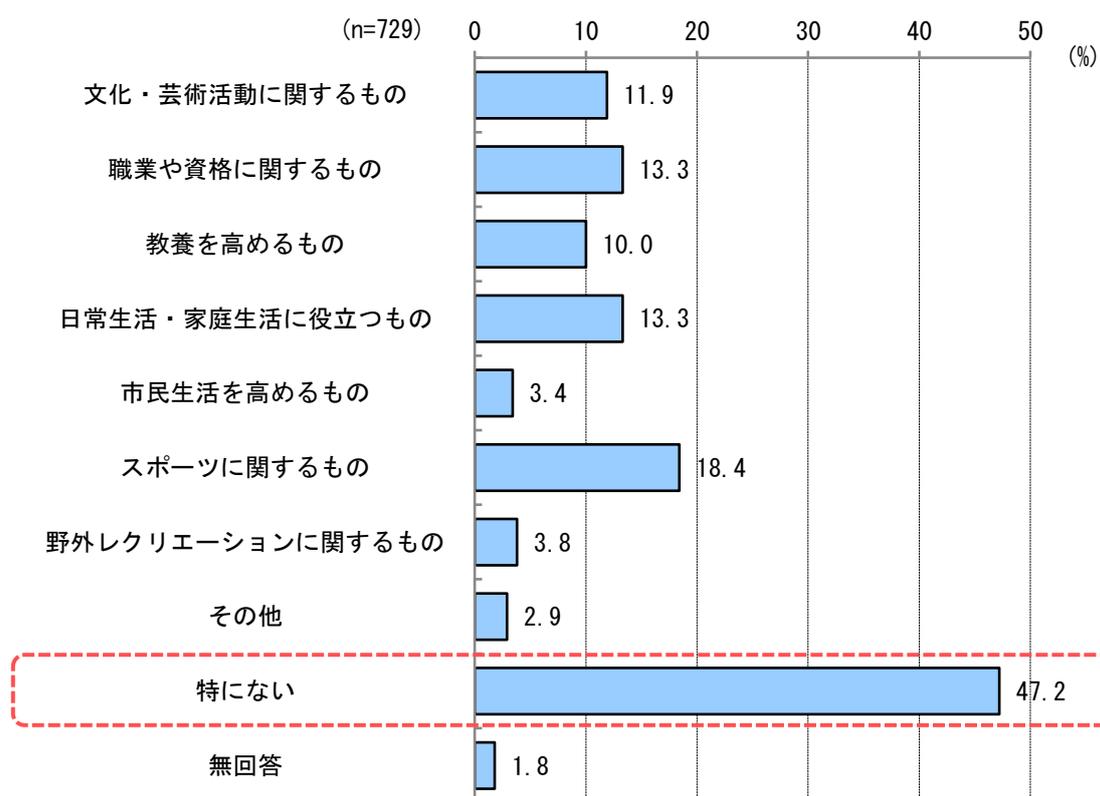
- 子どもたちや教育について課題と感じていることでは、「子どもたちの問題行動やいじめ・不登校」が最も高くなっています。
- ここ数年での子どもを取り巻く環境の変化については、「家庭と地域の結びつき」・「子どもと高齢者がふれ合う機会」で減少・希薄化している割合が高くなっています。
- 人口減少、デジタルトランスフォーメーション、グローバル化等の様々な社会の変化の中で、子どもの抱える課題が多様化・複合化しています。誰一人取り残さず、すべての人の可能性を引き出すための教育の実現に向け、学校での取り組みはもちろんのこと、家庭・地域においても、子どもとの関わりを深める取り組みが必要です。
- 新型コロナウイルス感染症拡大による状況下での子どもたちの教育について不安に感じていることについては、「子どもたちのコミュニケーション能力の低下」が最も高くなっています。
- 新型コロナウイルス感染症を契機にデジタルがもたらす学びにおける可能性が提示された一方で、子どもたちのコミュニケーション能力についての課題もあげられています。「デジタル」と「リアル」の最適な組み合わせの観点から、今後の教育や学習のあり方について検討していくことが必要です。

地域や家庭で行う学習や活動について

◇ 現在、仕事や家事、学業のほかに学んだり活動していることについて

- ・現在、仕事や家事、学業のほかに学んだり活動していることについては、「特にない」が47.2%と最も高く、次いで「スポーツに関するもの」(18.4%)、「職業や資格に関するもの」(13.3%)・「日常生活・家庭生活に役立つもの」(13.3%)となっている。

【問16 現在、仕事や家事、学業のほかに、学んだり活動していること】

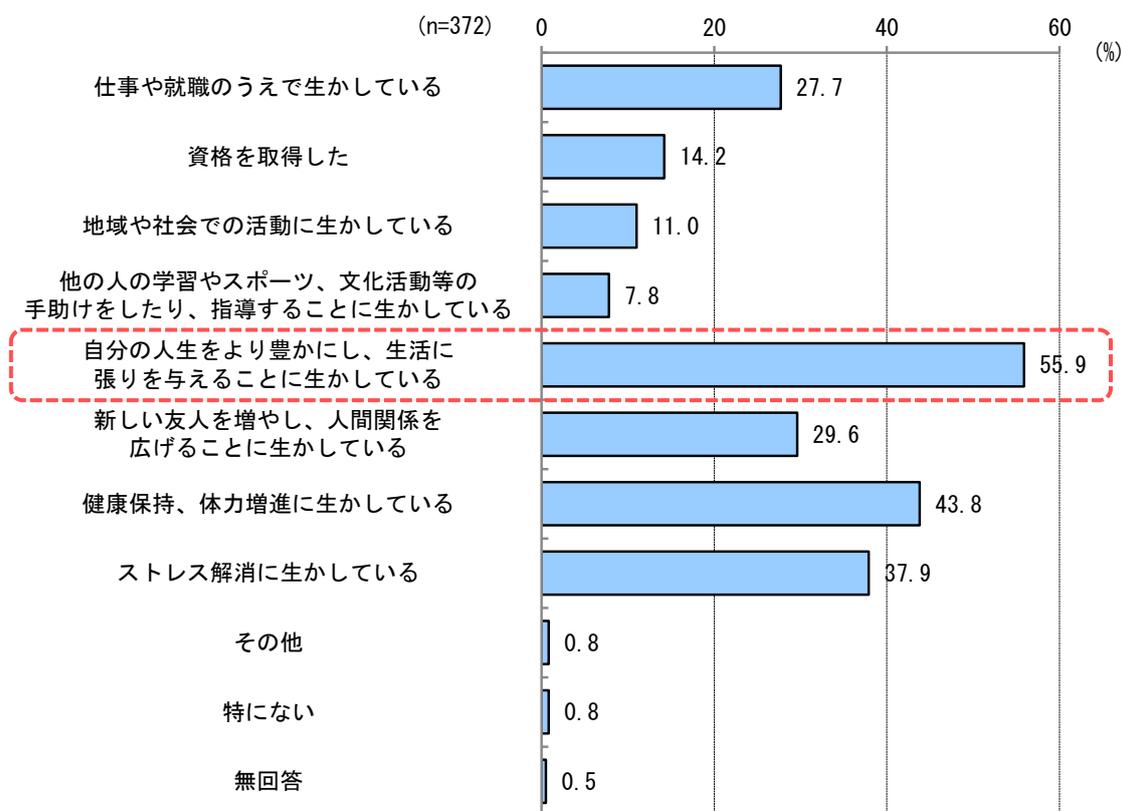


◇ 学習や活動を通じて身につけた知識や技能、経験をどのように生かしているか

- ・学習や活動を通じて身につけた知識や技能、経験をどのように生かしているかについては、「自分の人生をより豊かにし、生活に張りを与えることに生かしている」が55.9%と最も高く、次いで「健康保持、体力増進に生かしている」(43.8%)、「ストレス解消に生かしている」(37.9%)となっている。
- ・一方で、「地域や社会での活動に生かしている」は11.0%と1割にとどまっている。

【問 17 学習や活動を通じて身につけた知識や技能、経験をどのように生かしているか】

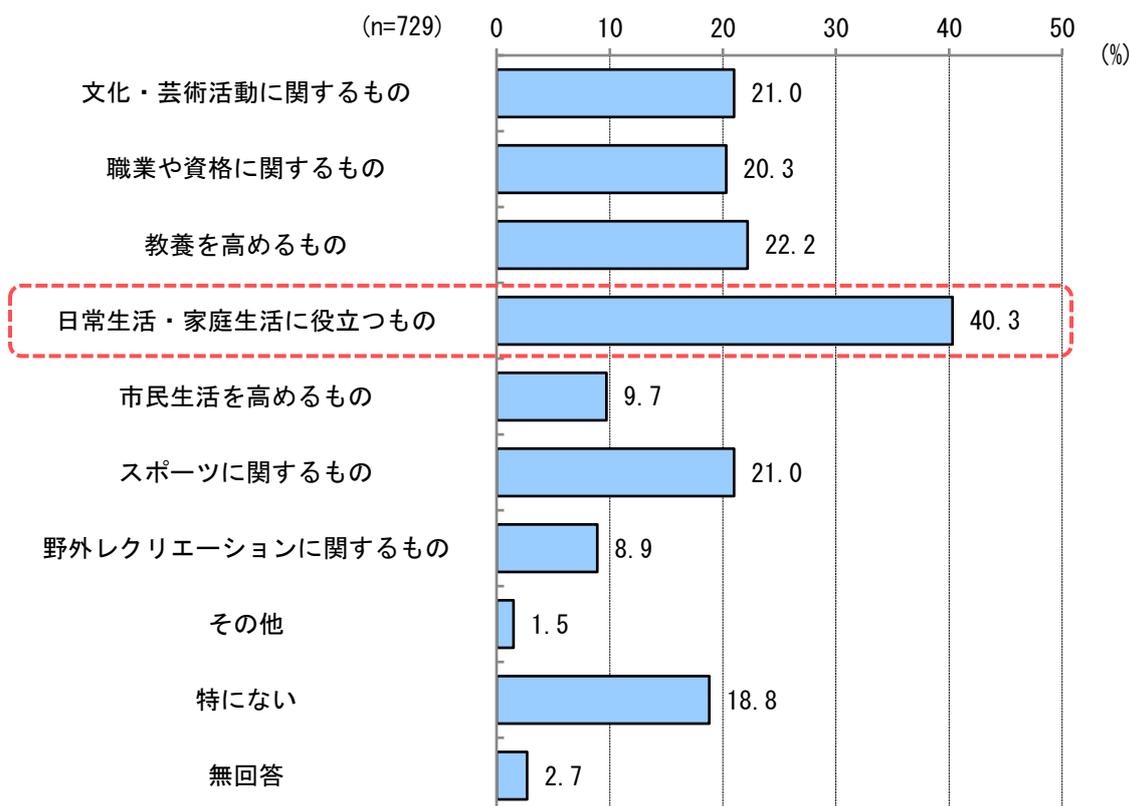
※問 16 で「特にない」以外を答えた方のみ回答



◇ 今後、仕事や家事、学業のほかに、学んだり活動したいと思うもの

・今後、仕事や家事、学業のほかに、学んだり活動したいと思うものについては、「日常生活・家庭生活に役立つもの」が40.3%と4割を占め最も高く、次いで「教養を高めるもの」(22.2%)、「文化・芸術活動に関するもの」(21.0%)・「スポーツに関するもの」(21.0%)となっている。

【問 18 今後、仕事や家事、学業のほかに、学んだり活動したいと思うもの】



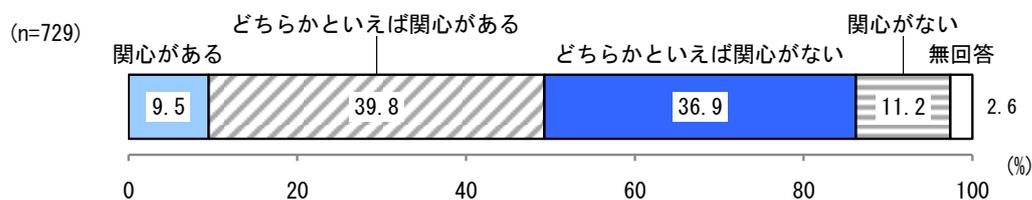
- 現在、仕事や家事、学業のほかに、学んだり活動していることがあるかについては、「特にない」が最も高くなっているものの、今後学んだり活動したいと思うものについては、「日常生活・家庭生活に役立つもの」が40.3%と4割を占め最も高くなっており、今後の学習・活動へのニーズは高くなっています。
- 現在、仕事や家事、学業のほかに何か活動している方に対して、身につけた知識や技能、経験をどのように生かしているかたずねたところ、「自分の人生をより豊かにし、生活に張りを与えることに生かしている」が55.9%と5割を超え最も高くなっています。
- 人生100年時代において、一人ひとりの学ぶ時期や進路が複線化する人生のマルチステージモデルへの転換が予測されており、社会人の学び直し（リカレント教育）をはじめとする生涯学習の重要性が高まっています。オンラインの活用等、開催方法の検討も含め、生涯学習や社会教育についての学びや活動の機会を充実させていくことが必要です。

西脇市の文化財や社会教育施設について

◇ 西脇市の文化財への関心について

- ・西脇市の文化財への関心については、「どちらかといえば関心がある」が39.8%と4割近くを占め最も高く、「関心がある」(9.5%)を合わせた『関心がある』の合計割合は49.3%となっている。
- ・一方で、「どちらかといえば関心がない」(36.9%)・「関心がない」(11.2%)を合わせた『関心がない』の合計割合は48.1%となっている。

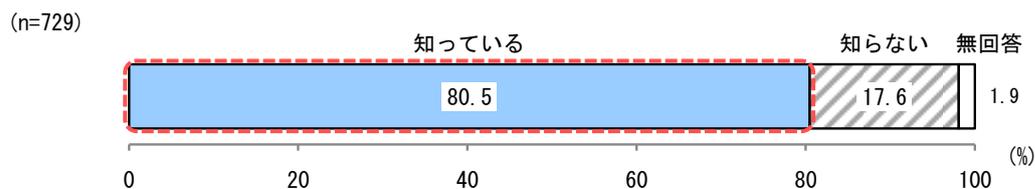
【問 19 西脇市の文化財についてどの程度関心があるか】



◇ 西脇市にある文化財の認知度について

- ・西脇市にある文化財の認知度については、「知っている」が80.5%と8割を占めている。
- ・一方で「知らない」は17.6%となっている。

【問 20 西脇市にある文化財を知っているか】



◇ 知っている西脇市の文化財について

・知っている西脇市の文化財については、「旧西脇尋常高等小学校（現西脇小学校）」が 89.1%と 9割近くを占め最も高く、次いで「旧来住家住宅」（84.8%）、「兵主神社拝殿」（51.6%）となっている。

【問 21 知っている西脇市の文化財】

※問 20 で「知っている」を答えた方のみ回答

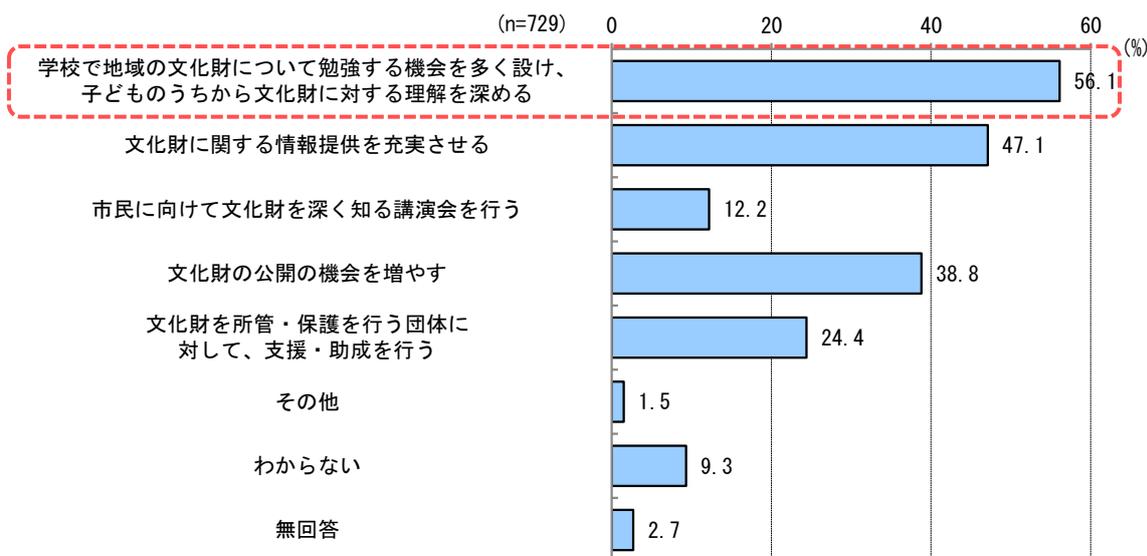
※上段：実数、下段：横%

調査数	旧西脇尋常高等小学校 (現西脇小学校)	兵主神社拝殿	住吉神社本殿	莊厳寺・多宝塔・本堂・三社八幡宮	西仙寺本堂・熊野権現社本殿	木造十一面観音立像	木造薬師如来坐像	きつね塚古墳石棺	石上神社なまざおさえ神事	道ノ上古墳	緑風台窯址附出土遺物	岡ノ山古墳	西林寺のカラコツバキ	荒神社のムクノキ	釈迦三尊板碑	五輪塔	石造十三重塔
587	523	303	97	191	84	77	21	41	75	17	145	196	104	78	25	41	49
100.0	89.1	51.6	16.5	32.5	14.3	13.1	3.6	7.0	12.8	2.9	24.7	33.4	17.7	13.3	4.3	7.0	8.3
調査数	木造釈迦如来坐像	木造阿弥陀如来坐像	木造大日如来坐像	木製本地仏 (兵庫県立歴史博物館保管)	木造阿弥陀如来立像	写経大般若経、 春日版大般若経及び経櫃	福地出土陶製経筒 (兵庫県立歴史博物館保管)	石原経塚出土経巻(写経) 青銅製経筒(蓋付)	石崖筆桃園義盟図幟	石崖筆張飛図絵馬 附同時奉納絵馬	野村廃寺出土重弁七葉蓮華文軒丸瓦	八坂廃寺出土複弁八葉蓮華文軒丸瓦	滝ノ上 20 号墳出土品	大伏南山古墳出土鉄刀・鉄剣・鉄鏃	慶長 15 年郷瀬村免定	石造宝篋印塔附石灯笼残欠	すきぐし製造用具
587	12	10	4	3	13	5	2	3	3	3	7	6	3	5	2	6	13
100.0	2.0	1.7	0.7	0.5	2.2	0.9	0.3	0.5	0.5	0.5	1.2	1.0	0.5	0.9	0.3	1.0	2.2
調査数	観音堂境内図絵馬	妙覚寺ワラワラ	八幡神社お笑い神事	下山古墳	六所神社のフジ	西光寺山のウバメガン群落	旧来住家住宅	コヤノ美術館西脇館 (旧藤井家住宅)	その他の未指定文化財	無回答							
587	7	52	64	22	43	24	498	271	-	-							
100.0	1.2	8.9	10.9	3.7	7.3	4.1	84.8	46.2	-	-							

◇ 今後、文化財を守り、継承していくために西脇市が取り組むべきことについて

・今後、文化財を守り、継承していくために西脇市が取り組むべきことについては、「学校で地域の文化財について勉強する機会を多く設け、子どものうちから文化財に対する理解を深める」が56.1%と最も高く、次いで「文化財に関する情報提供を充実させる」(47.1%)、「文化財の公開の機会を増やす」(38.8%)となっている。

【問 22 今後、文化財を守り、継承していくために西脇市が取り組むべきこと】

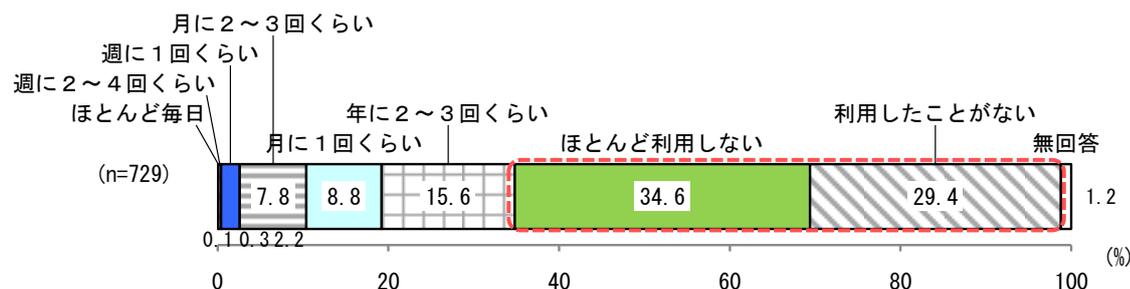


◇ 西脇市図書館の利用頻度について

・西脇市図書館の利用頻度については、「ほとんど利用しない」が34.6%と最も高く、次いで「利用したことがない」が29.4%と、『利用していない』の合計割合は64.0%となっている。

・「ほとんど毎日」(0.1%)・「週に2～4回くらい」(0.3%)・「週に1回くらい」(2.2%)・「月に2～3回くらい」(7.8%)・「月に1回くらい」(8.8%)・「年に2～3回くらい」(15.6%)を合わせた『年に2回以上利用している』合計割合は34.8%となっている。

【問 23 西脇市図書館の利用頻度】

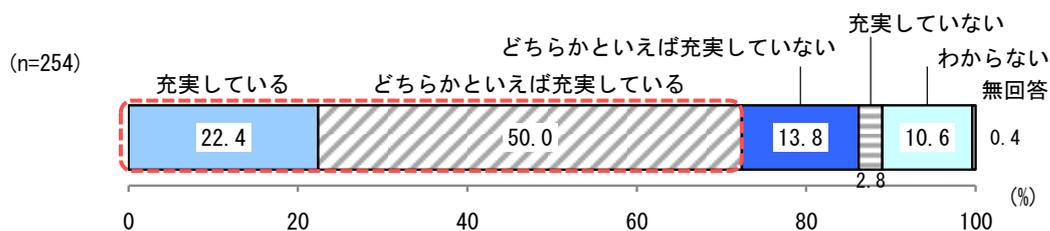


◇ 西脇市図書館の蔵書内容について

- ・西脇市図書館の蔵書内容については、「どちらかといえば充実している」が 50.0%と最も高く、「充実している」(22.4%) を合わせた『充実している』の合計割合は 72.4%と 7 割を超えている。
- ・一方で、「どちらかといえば充実していない」(13.8%)・「充実していない」(2.8%) を合わせた『充実していない』の合計割合は 16.6%となっている。

【問 24 西脇市図書館の蔵書内容】

※問 23 で「ほとんど利用しない」・「利用したことがない」以外を答えた方のみ回答

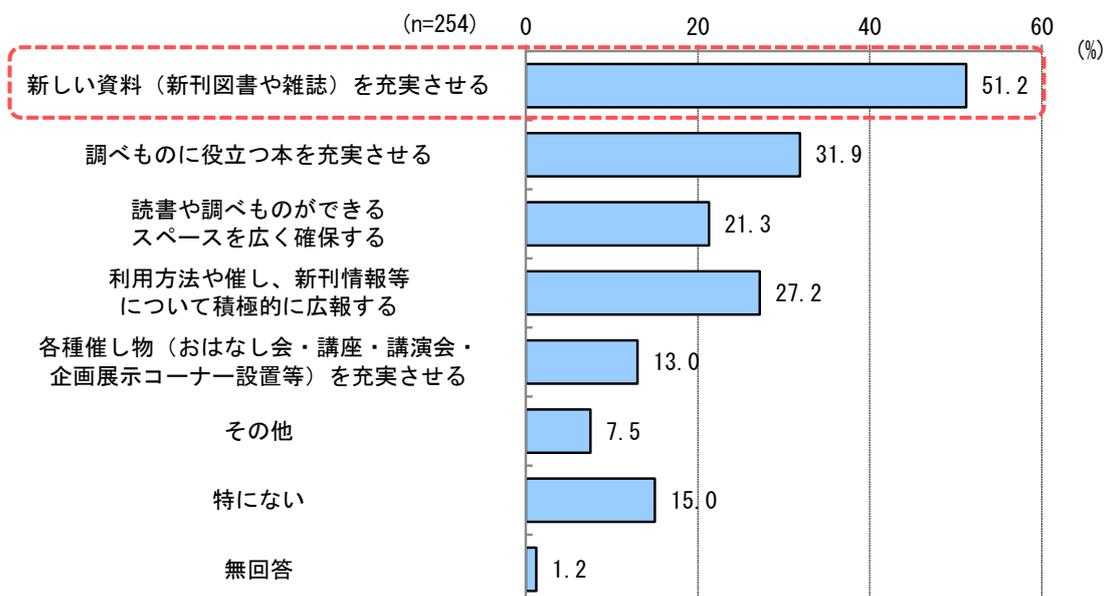


◇ 西脇市図書館を利用しやすくするために必要なこと

- ・西脇市図書館を利用しやすくするために必要なことについては、「新しい資料(新刊図書や雑誌)を充実させる」が 51.2%と 5 割を超え最も高く、次いで「調べものに役立つ本を充実させる」(31.9%)、「利用方法や催し、新刊情報等について積極的に広報する」(27.2%)となっている。

【問 25 西脇市図書館を利用しやすくするために必要なこと】

※問 23 で「ほとんど利用しない」・「利用したことがない」以外を答えた方のみ回答

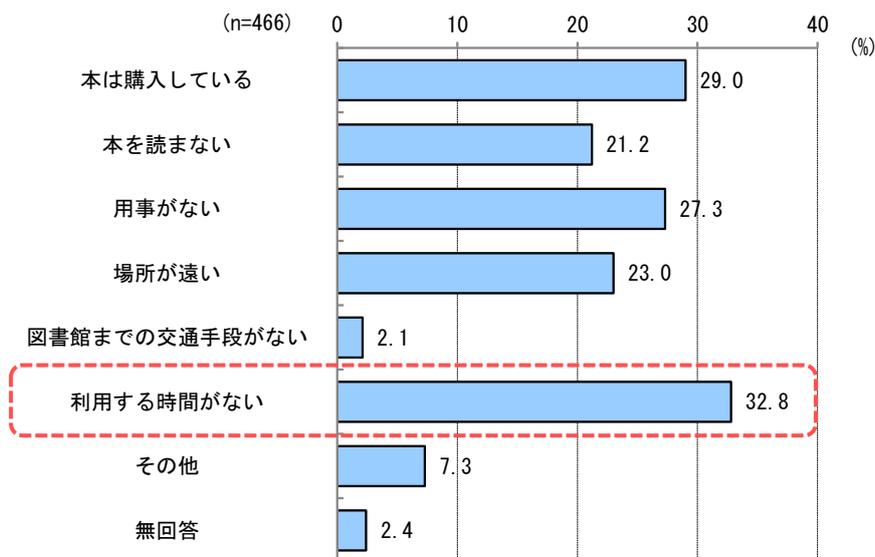


◇ 西脇市図書館を利用しない理由

・西脇市図書館を利用しない理由については、「利用する時間がない」が32.8%と3割を超え最も高く、次いで「本は購入している」(29.0%)、「用事がない」(27.3%)となっている。

【問 26 西脇市図書館を利用しない理由】

※問 23 で「ほとんど利用しない」・「利用したことがない」を答えた方のみ回答



- 西脇市の文化財については、『関心がある』の合計割合・『関心がない』の合計割合がそれぞれ5割近くを占めており、関心度が分かれる結果となっています。
- 西脇市の文化財の認知度については、「旧西脇尋常高等小学校（現西脇小学校）」・「旧来住家住宅」で8割を超えているものの、認知度が1割未満のものも多くなっています。
- 西脇市の各地域に伝わる郷土の伝統や地域文化への理解を深め、継承・発展させるために、子どもの中から文化財に対する理解を深めるような教育を充実させていくことが必要です。
- 西脇市図書館については、『利用していない』の合計割合が6割を超えており、利用していない理由としては、「利用する時間がない」が3割を超え最も高くなっています。
- 質の高い学びを実現するために、資料の充実を図るとともに、利用のしやすさを高めるための整備の充実を図ることが必要です。

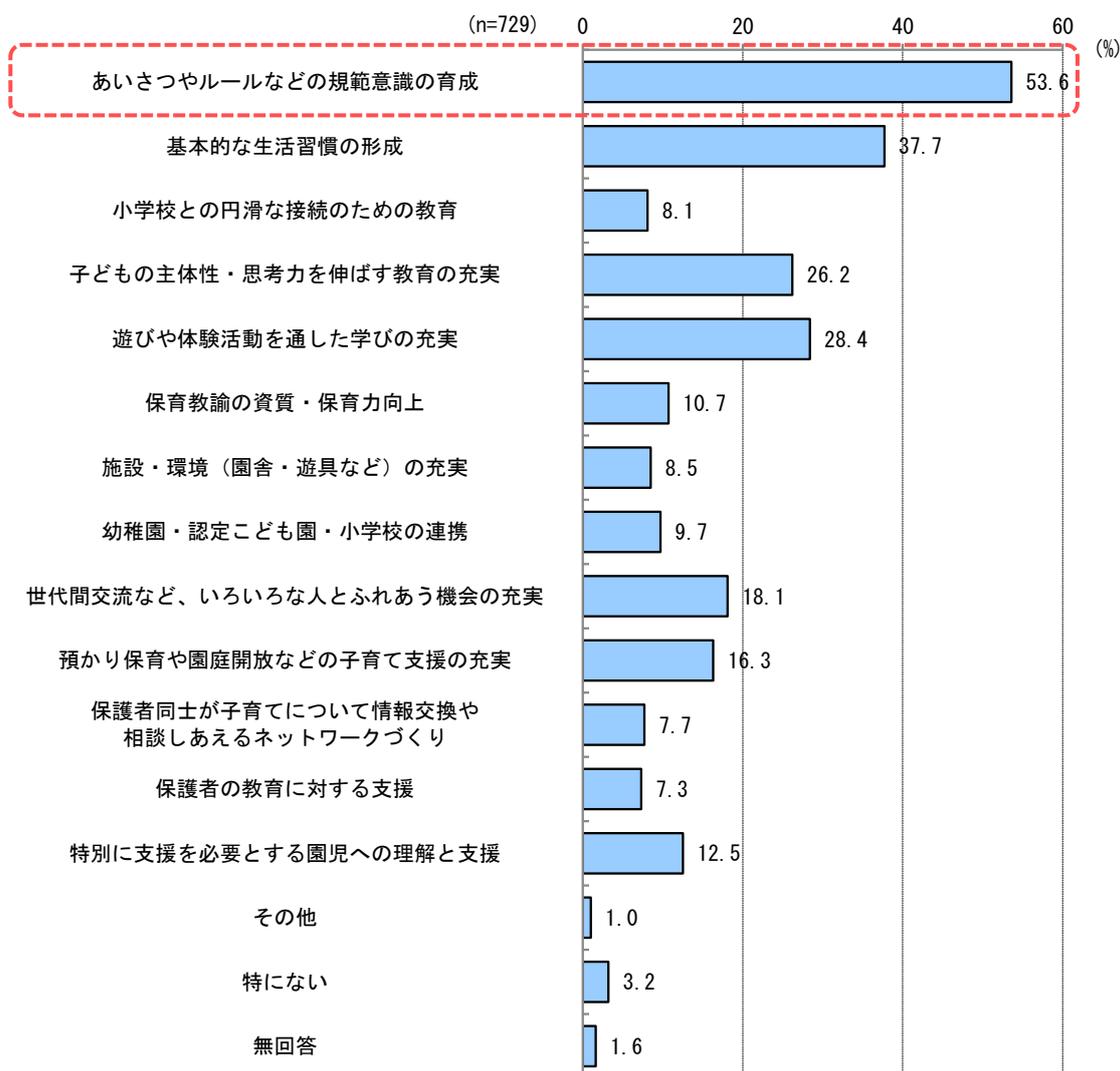
西脇市の教育施策や教育事業について

◇ 就学前教育について必要だと思うこと

- ・就学前教育について必要だと思うことについては、「あいさつやルールなどの規範意識の育成」が53.6%と5割を超え最も高く、次いで「基本的な生活習慣の形成」(37.7%)、「遊びや体験活動を通した学びの充実」(28.4%)となっている。

【問27 西脇市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業】

①就学前教育について

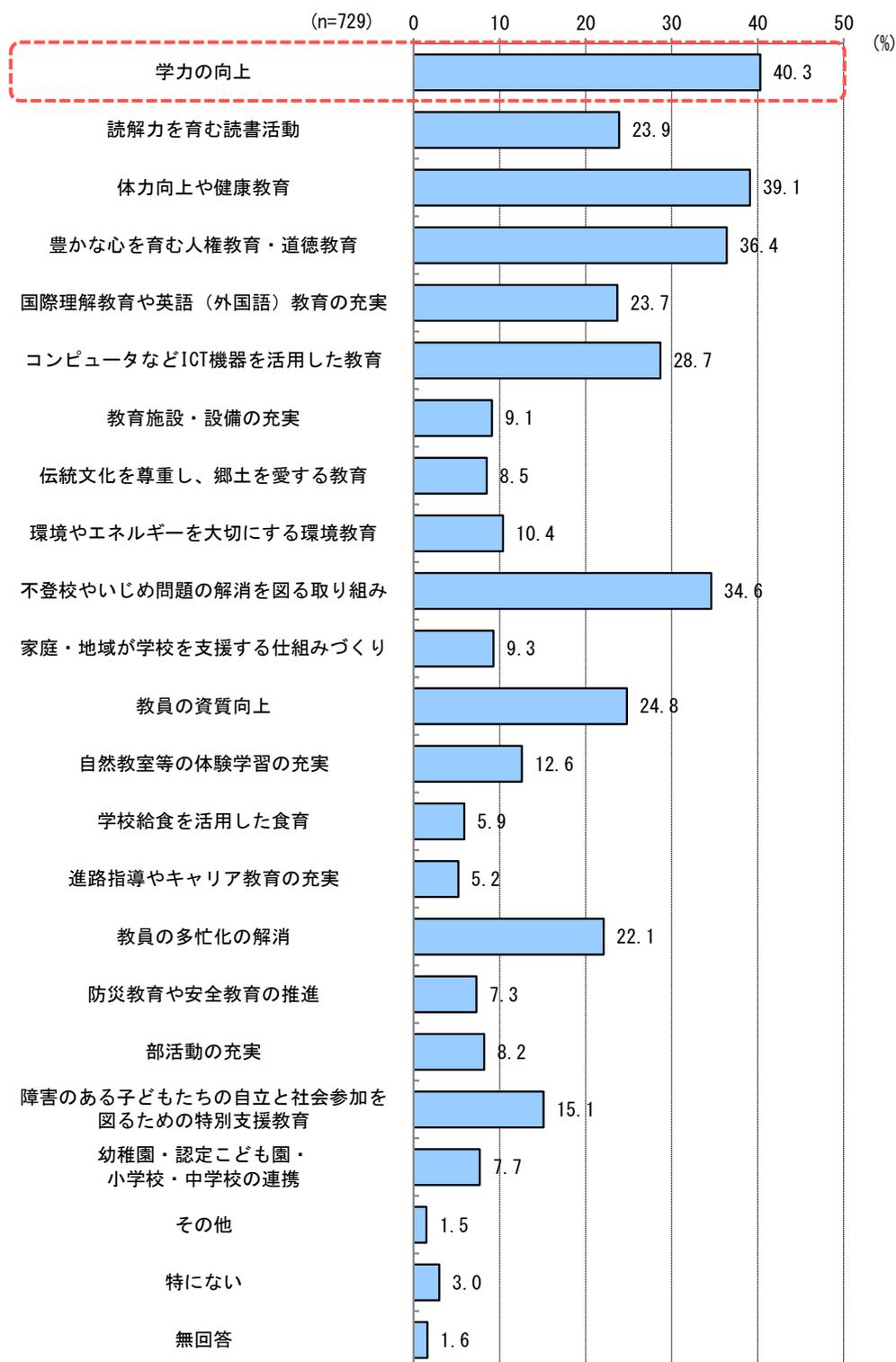


◇ 小・中学校教育について必要だと思うこと

・小・中学校教育について必要だと思うことについては、「学力の向上」が40.3%と4割を占め最も高く、次いで「体力向上や健康教育」(39.1%)、「豊かな心を育む人権教育・道徳教育」(36.4%)となっている。

【問27 西脇市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業】

②小・中学校教育について

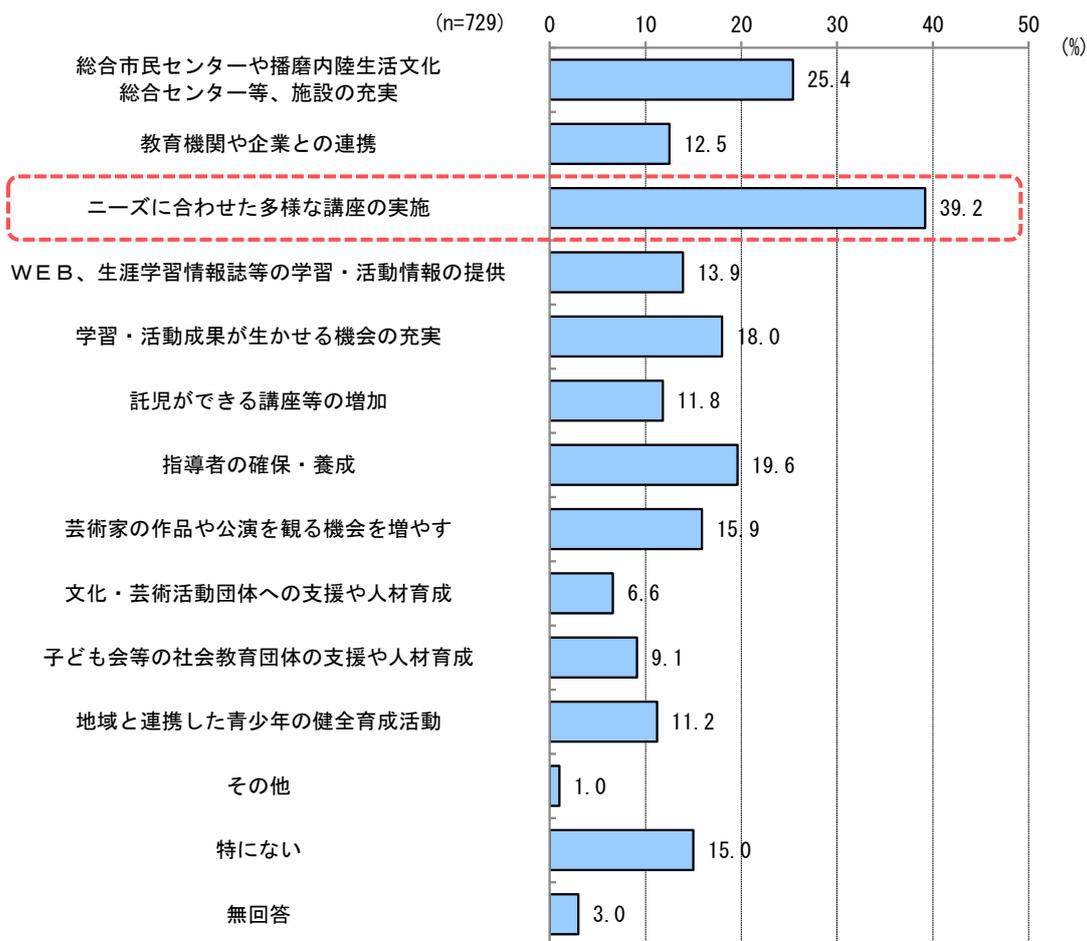


◇ 生涯学習について必要だと思うこと

・生涯学習について必要だと思うことについては、「ニーズに合わせた多様な講座の実施」が39.2%と4割近くを占め最も高く、次いで「総合市民センターや播磨内陸生活文化総合センター等、施設の充実」(25.4%)、「指導者の確保・養成」(19.6%)となっている。

【問 27 西脇市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業】

③生涯学習について

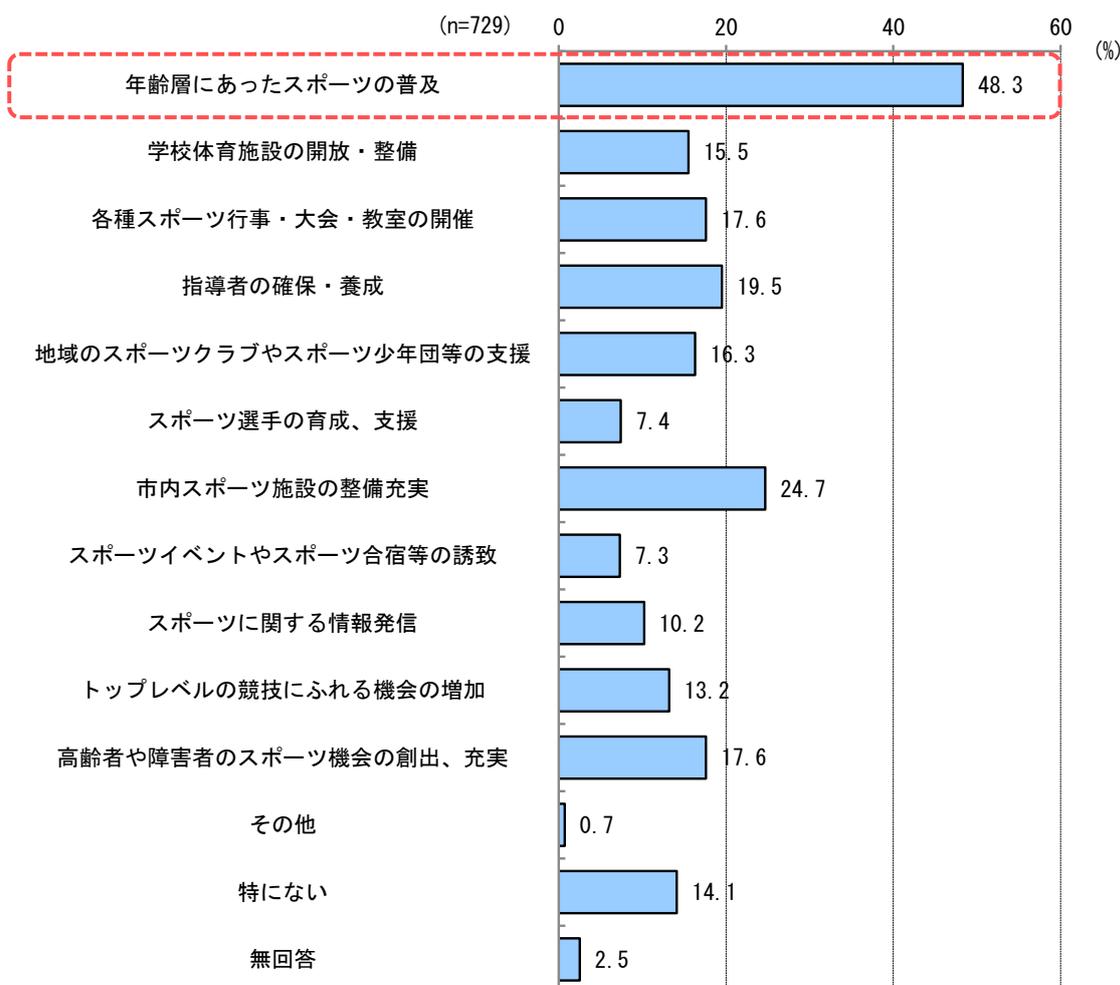


◇ スポーツ活動について必要だと思うこと

・スポーツ活動について必要だと思うことについては、「年齢層にあったスポーツの普及」が48.3%と5割近くを占め最も高く、次いで「市内スポーツ施設の整備充実」(24.7%)、「指導者の確保・養成」(19.5%)となっている。

【問 27 西脇市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業】

④スポーツ活動について



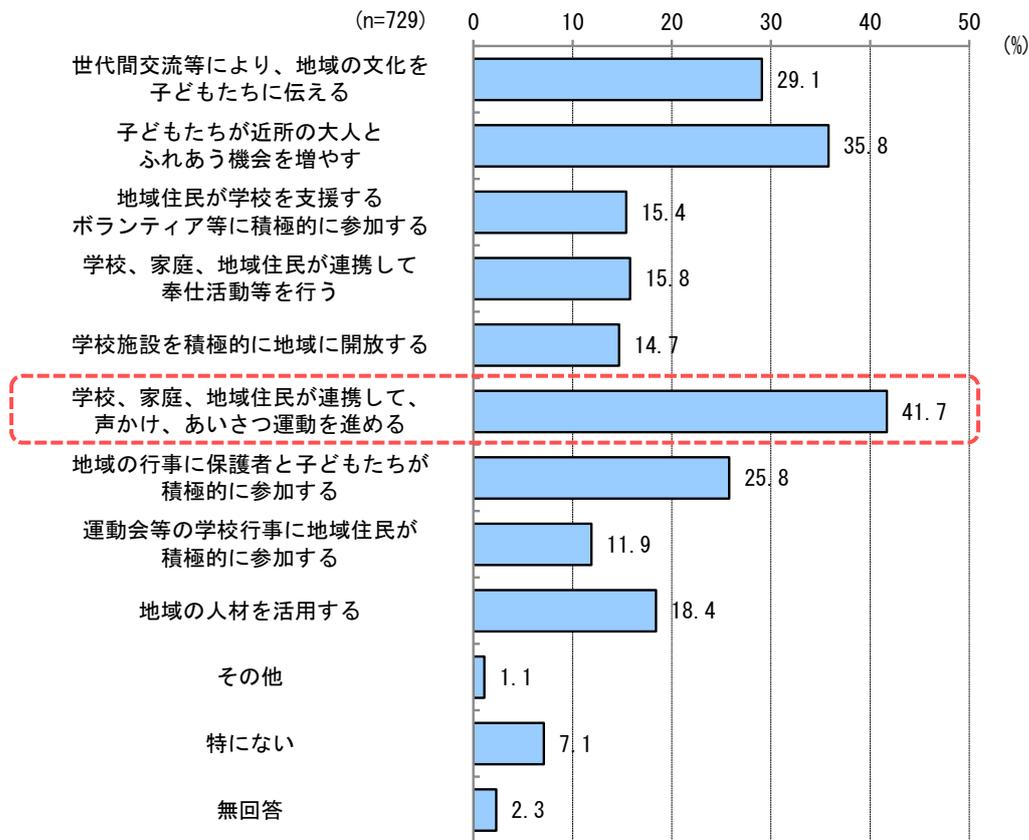
- 就学前教育で必要なことについては、「あいさつやルールなどの規範意識の育成」が最も高くなっています。
 - 小・中学校教育で必要なことについては、「学力の向上」が最も高くなっています。
 - 生涯学習で必要なことについては、「ニーズに合わせた多様な講座の実施」が最も高くなっています。
 - スポーツ活動で必要なことについては、「年齢層にあったスポーツの普及」が最も高くなっています。
- 持続可能な社会の形成・発展に向け、主体的に社会に参画し、生涯にわたって学び続ける人材を育成するとともに、いつでも学びを受けられる教育環境、様々な活動に参加しやすい環境の整備に努めていくことが重要です。

地域の教育力の向上について

◇ 学校・地域・家庭の連携により子ども達を育てていくために必要な取り組み

・学校・地域・家庭の連携により子ども達を育てていくために必要な取り組みについては、「学校、家庭、地域住民が連携して、声かけ、あいさつ運動を進める」が41.7%と4割を超え最も高く、次いで「子どもたちが近所の大人とふれあう機会を増やす」(35.8%)、「世代間交流等により、地域の文化を子どもたちに伝える」(29.1%)となっている。

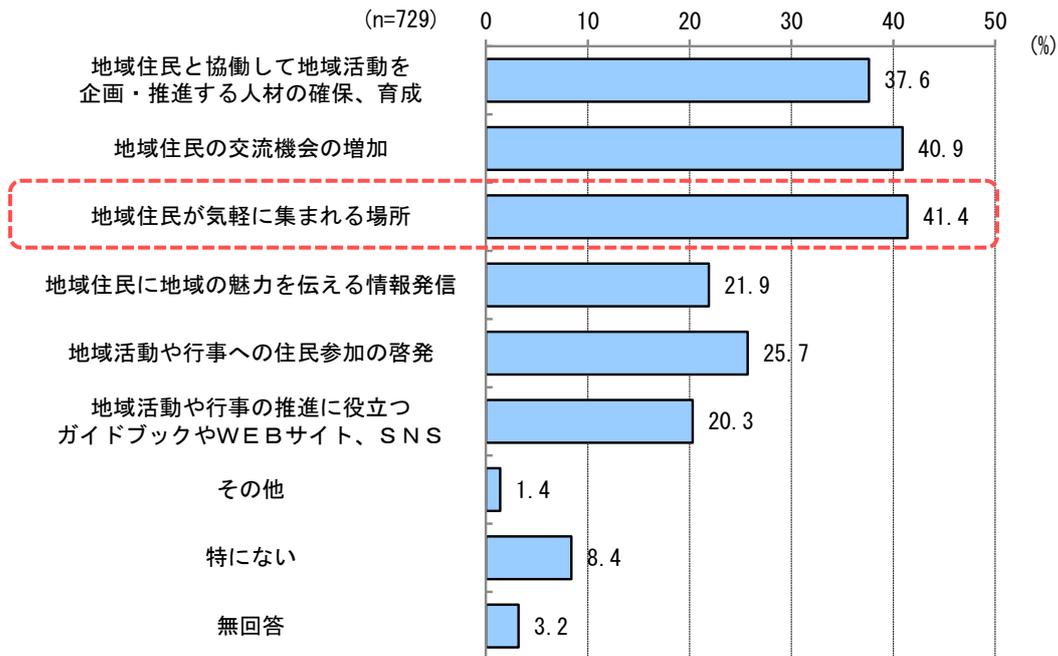
【問 28 学校・地域・家庭の連携により子ども達を育てていくために必要な取り組み】



◇ 地域住民のつながりを広げるために必要なこと

・地域住民のつながりを広げるために必要なことについては、「地域住民が気軽に集まれる場所」が41.4%と4割を超え最も高く、次いで「地域住民の交流機会の増加」(40.9%)、「地域住民と協働して地域活動を企画・推進する人材の確保、育成」(37.6%)となっている。

【問 29 地域住民のつながりを広げるために必要なこと】



- 学校・地域・家庭の連携により子どもたちを育てていくために必要な取り組みについては、「学校、家庭、地域住民が連携して、声かけ、あいさつ運動を進める」が最も高くなっています。
- 地域住民のつながりを広げるために必要な取り組みについては、「地域住民が気軽に集まれる場所」が最も高くなっています。
- 近年、共働き家庭の増加、地域のつながりの希薄化など、家庭を取り巻く環境が変化しており、子育てに不安をもつ保護者も多くなっています。地域全体で家庭教育を支えていくための基盤づくりが重要です。
- 保護者や地域住民が学校と連携・協働して、子どもたち一人ひとりが幸福や生きがいを感じられる学びをつくっていくことは、学校に携わる人々のウェルビーイングの向上にもつながり、ひいては子どもたちのウェルビーイングの向上にもつながります。学校、保護者、地域住民等のそれぞれのウェルビーイングが高まるよう、三者が一体となって取り組みを推進していくことが必要です。